

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170200150
法人名	有限会社 在宅介護お世話宅配便
事業所名	有限会社在宅介護お世話宅配便グループホーム お茶ばたけ
所在地	佐賀県唐津市神田2077-21 (電 話) 0955-75-0309

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 21年3月31日	評価確定日	平成 21年5月25日

【情報提供票より】(平成21年3月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	17 人	常勤 4 人, 非常勤 13 人, 常勤換算	6.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	有 (84,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要(平成21年3月17日現在)

利用者人数	7 名	男性	2 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 79.5 歳	最低 73 歳	最高 90 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人希清会 岩本内科医院・ORAL BÜRO HASEGAWA
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲がお茶畑という自然豊かな環境のなか、のんびりとした雰囲気が入居者本位の生活支援がなされている。また、入居者による地域活動も活発であり、同法人内の利用する高齢者で結成された合唱団等を通じ、他事業との相互交流も行われている。職員もホーム内の月1回の会議の他に、法人全体の研修会等にも積極的に参加し、サービスの向上の努めている。特にホームでは「地べたからの介護」に取り組んでおり、ベッド・椅子等は必要最小限の利用にとどめ、入居者の身体づくりをしていくことが職員全体に共有されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意義を職員が理解し、改善に向けて意見交換等を行っている。また、評価は事務室に資料として置かれ、職員がいつでも閲覧できるようになっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ホーム職員全員で自己評価に取り組み、外部評価とのすり合わせの中で、自分たちの支援内容を振り返る材料とし、今後活かしていくよう取り組まれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族の代表や行政職員、地域包括支援センター職員、地域住民を含めて、2ヶ月に1回程度開催している。そのなかで、事業所の行事等の報告だけでなく、外部評価・自己評価についても説明をし、参加者からのニーズを捉えるようにしている。また、その結果はホーム内の会議で全員で検討し、日常の中で活かせるよう取り組まれている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居者の状況は、毎月、お便りにより個別に報告されており、必要に応じて電話での対応もされている。また、家族会開催や家族へのアンケート調査等を行い、積極的に意見・要望を聞いている。出された意見については、ホーム内の会議で検討し、改善に取り組まれている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域行事への参加やホームで開催する行事に、地域の人々の参加を呼びかけるなど、積極的に地域との交流を図っている。また、散歩の中でゴミ拾い等をするなど、地域への貢献に努めている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	お客様、スタッフ、社会貢献という三方に向けて善をなす「三方善」の考えのもと、地域のニーズを取り入れながら、基本理念を作成し、リビングルームに掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の会議や法人内の研修会等の機会に職員全員で理念を確認することで共有し、その具体化に向けて日々のサービスに取り込めるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	関連グループの利用者の方と一緒に合唱団を結成する等し、積極的に地域行事へ参加している。また、普段の散歩の機会等にもゴミ拾いや公民館の清掃も行い、地域の一員として交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員で自己評価に取り組み、改善点等は会議を行い、日常のケアに活かせるようにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター職員や家族、地域住民を交え、2ヶ月に1回運営推進会議を開き、事業所からの報告事項、意見交換等を行い、サービス向上へつなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	適宜、運営や制度に関する疑問点については、市担当者へ訪問や相談する等の機会を作り、連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的な家族会の開催や月1回のお便り等で、入居者の状況や金銭管理について報告している。また、必要に応じて電話連絡するなど、状況に合わせて対応している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会でのアンケート調査の実施や、運営推進会議への家族代表者の出席、また、意見箱の設置等を行ない情報収集をしている。要望等については、職員全員で改善策を検討し、取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームを中心とした職員配置が考えられ、日頃から法人全体の職員による支援があることで、異動があった場合でも入居者に支障がないような協力体制づくりをしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業者内での定期的な研修会や、法人全体での研修会、幹部研修会の開催、外部講師による研修会の実施等を行っている。また、希望に応じて外部研修会にも参加できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部からの研修や実習の受け入れ、また、入居者が中心の合唱団を通じて他の事業所と相互訪問等を行い、サービスの質の向上をさせる取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族とも話し合いをし、事前にホームへ来てもらったり、法人内のデイサービス等を利用して雰囲気慣れ、馴染みの生活が継続できるような工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の掃除や洗濯物たたみ、食事づくり等を一緒に行い、日頃より共に支えあう関係づくりをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、職員が入居者の言葉を傾聴し、尊重した支援が行われている。また、家族からも以前の生活状況等の情報を収集し、支援に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族と直接話し、希望を聞いて計画を立てている。また、職員全体で計画について話し合い、作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月ケア会議を開催し、定期的な計画の見直しを行っている。また、状態の変化により計画に変更が必要な場合には、その都度会議を開催し、計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の要望により、買い物や外出支援を行っている。また、自宅や行きつけの美容室等への外出支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の希望に応じ、かかりつけ医へ定期的な受診をし、体調管理を行っている。また、必要時の受診や、緊急時には適切な指示を受けられるような連携がとられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に話し合いが行われ、書面による同意を得られている。また、状態の変化に応じて適宜話し合いがなされ、重度化や終末期における方針が共有されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては書面による説明をし、同意を得られている。また、入居者へは個人を尊重した言葉かけや対応がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースにあった支援がされており、散歩等、希望に対応できるよう取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じ食卓で同じ食事をともに摂っている。また、旬の食材を使ったり、季節に応じた食事形態に工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるように対応している。また、寒い時期は、希望に応じて足浴を行う等工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活習慣を取り入れ、本人の能力に応じたホーム内での役割や楽しみができるような支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩等、入居者の希望に応じて自由に外出や屋外活動ができるような支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は常に開放され、入居者の行動を見守り、安全な生活が送れるよう配慮し、施錠しない支援を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年4回の避難訓練を実施するなかで、消防署や駐在員、地域住民との連携を確認し、日頃より協力が得られるような働きかけをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士へ相談し、栄養バランスを考えた献立の立案ができる体制づくりをしている。また、チェック表により入居者の摂取量を把握し調整を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を取り入れた、共用空間づくりがされている。また、台所で調理している音や匂いなど、家庭的な雰囲気が感じられるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具を持ち込むことができ、また、思い出の品を飾るなど、その人らしい生活ができるよう工夫されている。		